



日本体育・スポーツ経営学会

第48回大会

ソーシャル・イノベーションとしての住民主
導型スポーツ推進シス
テムの再興に向けて

武庫川女子大学

2025.3.14-16

－ ご挨拶 －

浅春の候、日本体育・スポーツ経営学会会員の皆様には、ますますご活躍のことと存じます。

さてこの度、日本体育・スポーツ経営学会第48回大会が2025年3月14日（金）から16日（日）を会期に、武庫川女子大学中央キャンパスにて対面開催される運びとなりました。開催にあたりましては、学会理事及び関係者の皆様方のご指導およびご協力に、厚く御礼申し上げます。

本大会は「ソーシャル・イノベーションとしての住民主導型スポーツ推進システムの再興に向けて」を大会テーマとして設定し、学会企画を構成しました。ソーシャル・イノベーションをめぐる詳細な理論的検討は学会プログラムの中で展開されることと思いますが、企画の背景には、我が国のスポーツシステムの未来やそのシステムを提案し創造してきた体育・スポーツ経営学研究の方向性に対する不透明感があります。体育・スポーツ経営学は、文化としてのスポーツを享受する権利を保障する仕組みを模索してきたといえませんが、その根底には人々を単なるスポーツサービスの受け手ではなく、主体的にスポーツに関わり、自主的にスポーツ文化を支え、創り出す担い手として運動者や生活者を位置づけるという思想がありました。

しかし、近年のスポーツの実践やスポーツシステムの状況を振り返ってみると、生活者重視あるいは運動者主導の理念は希薄になっているように感じます。例えば、生涯スポーツ推進の柱であった総合型地域スポーツクラブ政策では、住民の自治的・自律的なスポーツ推進システムとしてのクラブ育成が期待されていましたが、十分な全国展開には至っていません。体育・スポーツ経営学が希求してきた住民主導のスポーツ推進システムは、なぜ育たないのでしょうか。

また、国を挙げて進められている学校部活動の地域展開は、日本のスポーツシステムの大きな転換点になることは間違いないでしょう。地域展開の中では、休日の部活動を引き受ける地域クラブという、地域の多様な実施主体による新しいスポーツシステムが提案されています。総合型地域スポーツクラブ政策の経験を振り返ると、部活動の地域展開を支える多様な主体や住民の協働システムを創り出す可能性を議論する必要性がありそうです。

体育・スポーツ経営は、文化としてのスポーツの推進による豊かなスポーツ生活の実現とそれを可能にする運動者主導のスポーツシステムに関わるイノベーションを提案する営みであったともいえましょう。本大会がソーシャル・イノベーションというキーワードを契機に、体育・スポーツ経営学が追い求めてきたスポーツと運動者の姿を確認するとともに、住民主導のスポーツ推進システムを再興する機会となることを期待しています。

また、3日間という短い会期ですが、体育・スポーツ経営学研究に関わる情報交換だけでなく皆様方と対面で懇親を深めることができること、心より楽しみにしております。

大会実行委員長 柳沢和雄

- 目次 -

はじめに	1
大会日程	
会場案内	
オンライン情報	
各種マニュアル(参加者マニュアル、発表者マニュアル、座長マニュアル)	
基調講演	7
「ソーシャル・イノベーション研究の現在とスポーツ経営」	
■演者：高橋 勅徳 氏 (東京都立大学)	
シンポジウム	8
「住民主導型スポーツ推進システムの育成：課題と今後の展望」	
■シンポジスト	
「総合型地域スポーツクラブをめぐる政策展開と地域主体」	関根 正敏 氏 (中央大学)
「総合型地域スポーツクラブの休・廃止実態の背景と課題」	行實 鉄平 氏 (久留米大学)
「NPO の商業主義化と住民主導との相克」	桜井 政成 氏 (立命館大学)
■コーディネーター 松橋 崇史 氏 (拓殖大学) 横山 剛士 氏 (金沢大学)	
若手研究者によるワークショップ	9
「最新の研究方法論：クリティカル・マネジメント研究 (CMS)」	
■講師 米田 晃 氏 (神戸大学大学院経営学研究科 特命助教)	
研究発表 (学生研究発表、一般研究発表、ポスター発表)	10
抄録 (一般研究発表)	15
広告協賛	65
役員一覧	69

- はじめに -

大会日程

2025年3月14日（金）プレプログラム

時間	内容	会場
15:00～17:00	若手研究者によるワークショップ	GA-201 教室

2025年3月15日（土）大会1日目

時間	内容	会場
10:30～11:00	学生研究発表	A 会場：MM ホール
11:00～11:10	休憩	
11:10～11:40	ポスター発表	MM-503 教室および 506 教室前
11:40～12:40	昼休憩 *理事会	*MM-502 教室
12:50～13:00	開会あいさつ	A 会場：MM ホール
13:00～14:30	基調講演	A 会場：MM ホール
14:30～14:45	休憩	
14:45～16:45	シンポジウム	A 会場：MM ホール
16:45～17:00	休憩	
17:00～17:45	総会	A 会場：MM ホール
18:00～20:00	懇親会	KM 館 2 階 ENSEMBLE

2025年3月16日（日）大会2日目

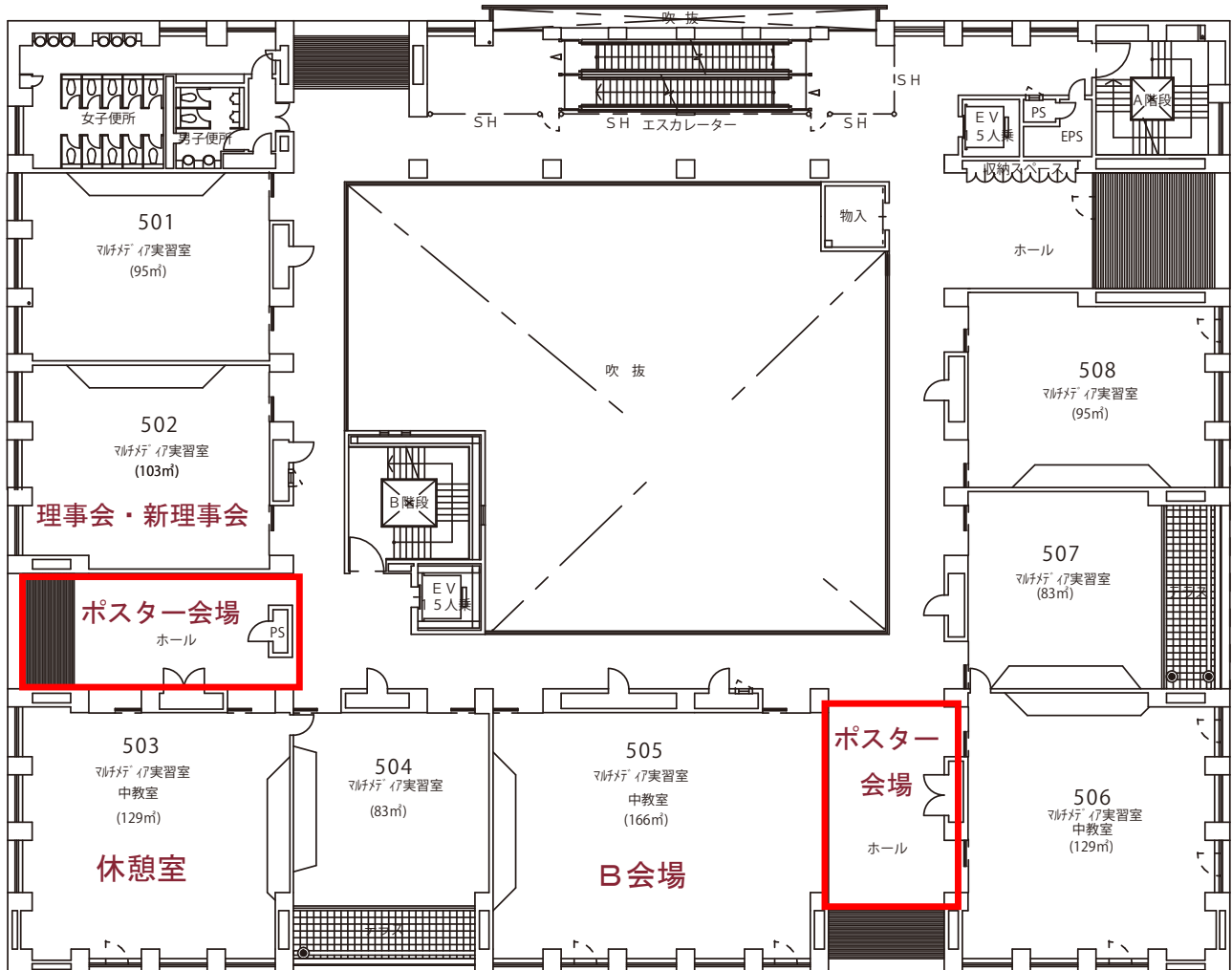
時間	内容	会場
9:30～10:50	一般研究発表（セッション1）	A 会場：MM ホール B 会場：505 教室
10:50～11:00	休憩	
11:00～12:20	一般研究発表（セッション2）	A 会場：MM ホール B 会場：505 教室
12:20～13:10	昼休憩 *新理事会	*MM-502 教室
13:10～14:30	一般研究発表（セッション3）	A 会場：MM ホール B 会場：505 教室
14:30～14:40	閉会式・優秀発表表彰	A 会場：MM ホール

*理事会および新理事会は理事のみのスケジュールとなります。

会場案内

※「A会場」はマルチメディア館 (MM) 1階ホールとなります

日下記念マルチメディア館 (MM館) 5階



- ・ 懇親会は、マルチメディア館の手前、公江記念館 (KM館) 2階で実施します
- ・ 若手研究者によるワークショップは、マルチメディア館の手前、第1体育館アネックス (GA) 2階で実施します。

- 各種マニュアル -

【オンライン情報】

大会期間中は国立情報学研究所が企画・運用している「eduroam」もしくは武庫川女子大学の無線 wifi 「LAVY SPOT」を利用いただけます。

< 「eduroam」 の利用方法 >

武庫川女子大学では eduroam を使用できます。無線 LAN 接続のリストで「eduroam」を選択していただき、各研究機関で設定している ID とパスワードを使って無線 LAN 接続を行ってください。

< 「LAVY SPOT」 の利用方法 >

「eduroam」が使用できない方は、武庫川女子大学の無線 wifi 「LAVY SPOT」をゲストアカウントにてご利用ください（ID：jsmpes2503、パスワード：ED2Q49iF）。

【参加者マニュアル】

1. 受付

- 受付場所および時間は下記のとおりです。

3月14日（金）	14:30～15:00	第1体育館アネックス（GA）2 階 201 教室
3月15日（土）	9:30 ～15:00	日下記念マルチメディア館（MM）2 階廊下
3月16日（日）	9:00 ～10:00	日下記念マルチメディア館（MM）2 階廊下

- 口頭発表者およびポスター発表者は、ご自身の発表枠開始時刻の **15 分前まで**に受付をお済ませください。なお、体調不良その他の理由により当日に欠席される際は大会事務局までご連絡をお願いいたします。

<大会事務局> TEL：0942-43-4411 E-mail：keiei48th@gmail.com

- 受付時にネームホルダーをお渡しします。お名刺を入れていただき大会期間中のネームカードとしてご活用ください。会場に入場される際には当該のネームカードを着用していただけますようお願いいたします。なお、お名刺のない方には、台紙にお名前とご所属を記入していただき、ネームホルダーに挿入していただきます。また、懇親会参加者には、タックタイトル（赤丸シール）をネームカードに貼り付けていますので、ご確認ください。

2. 会場について

- ・ 休憩室：日下記念マルチメディア館（MM）5階の503教室は、休憩室となっています。飲み物、お菓子を用意していますので、ご自由にお使いください。その際、ゴミ等は所定の場所に捨てていただきますようによろしくお願いします。
- ・ クローク：クロークはございません。ただし、上記の休憩室では貴重品等の管理は自己責任となりますが、荷物を置いていただいても構いません。
- ・ 喫煙：学内禁煙です。ただし、学外に喫煙場所（付近のコンビニ）がございます。

3. 発表者の配布資料について

発表者には、配布資料がある場合、①「教室前に用紙での配布資料を準備していただく」、②「発表時に自身の資料のデータを格納しているサイトの紹介をしていただく」といった2つの方法を案内しています。発表者の案内に応じて配布資料をお取りください。

4. 大会会場での写真・ビデオ撮影等について

本大会プログラムにおける写真・ビデオ等の撮影および録音は認めておりません。ただし、学会事務局や大会事務局が記録のために、写真・ビデオ等の撮影をおこなうことがございますので予めご了承ください。

5. お弁当の配布について

参加申込時にご注文いただいたお弁当は、受付（日下記念マルチメディア館2階廊下）にてお渡しいたします。1食分の料金（1,000円）をご用意の上、大会1日目（3/15）は11:40に、大会2日目（3/16）は12:20にお弁当を受け取りにお越しくください。

【発表者マニュアル】

1. 口頭発表

(1) 発表データの提出とリハーサルについて

- 発表データ（発表時にご利用になる PPT 等のデータ）は、ご自身が発表されるセッションの 10 分前までに発表教室の PC にご提出ください。データの提出は USB メモリを用いておこない、提出の際には近くのスタッフにお声がけください（大会終了後、大会本部が責任を持って消去いたします）。
- 提出時には、ファイル名に「演題番号」と「発表者名」を含めてください。
例：A01 宇野 発表資料.pptx
- リハーサルについては、発表前や休憩時間中、会場のスタッフにお声がけください。

(2) 配布資料について

- 配布資料がある場合、①「教室前に用紙での配布資料を準備していただく」、②「発表時に自身の資料のデータを格納しているサイトの紹介をしていただく」といった 2 つの方法で対応をお願いします。
- 印刷部数の参考のため、学会大会参加申込者数を記載します（2 月末時点で約 110 名）

(3) 口頭発表での注意点

- 口頭発表では、大会本部の用意する共用 PC（windows-PC）での発表を原則とします。
- なお、発表で使用したデータは、発表終了後、大会本部が責任を持って消去いたします。
- 発表は座長の指示にしたがっておこなってください。
- やむを得ず発表者の持込 PC をご利用の場合は、機器接続・設定等についてご自身の責任においておこなっていただくこととなりますのでご理解ください。
- 発表データを作成する際、使用するフォントは Windows 標準のものをご使用ください。特殊なフォントを使用すると文字ズレやレイアウトの乱れの原因となります。

2. ポスター発表

(1) ポスター作成上の注意点

- ポスターは縦置き A0 サイズ（A3 判 6 枚、A4 判 12 枚）を上限として作成してください。
- ポスターの最上部から演題名、発表者氏名、共同研究者、所属、発表内容を記載してください。
- フォントサイズは、通常のポスター発表の際に使用される程度の大きさを推奨します。

(2) 現地会場での掲示・発表について

- ・ 発表者ご自身でポスター原稿を印刷の上、会場までご持参ください。
- ・ 掲示用のピンまたはマグネットは大会事務局が用意いたします。
- ・ 演題 1 つに対して 1 枚のポスター枠が用意されておりますので指定された枠に掲示してください。
- ・ ポスター発表は 1 日目ですが、発表者は大会 1 日目の **10:30 まで**にポスター掲示をお願いします。
- ・ 1 日目のポスター発表フリーディスカッション開始時間の **10 分前**に、ポスター会場前にお越しください。
- ・ 今大会では、ポスター発表の運営方法として、お一人ずつ **5 分以内**で研究概要をご説明いただくこととします。発表者の研究概要説明が終了したところから、フリーディスカッションの時間（25 分程度）を設けさせていただきます。
- ・ 2 日目 15:00 以降に掲示してあるポスターは大会事務局にて撤去し、処分いたします。

【座長マニュアル】

- ・ 発表の **10 分前まで**に会場へご入室ください。発表者にも 10 分前に入室するよう指示していますので発表者をご確認ください。
- ・ セッション開始前に、進め方の確認（質問の仕方や資料閲覧方法など）をお願いします。
- ・ 発表は、座長の時計で確認いただき、時間になりましたら開始してください。当日までに時計の時刻確認をお願いいたします。
- ・ タイムキーパーは実行委員会で準備いたします。発表が始まり次第、時間をカウントします。
- ・ 一般研究発表のベルは、14 分で **1 回**、15 分（発表終了時）に **2 回**、20 分（質疑応答終了時）に **3 回**鳴らします。
- ・ 学生研究発表のベルは、9 分で **1 回**、10 分（発表終了時）に **2 回**、15 分（質疑応答終了時）に **3 回**鳴らします。
- ・ 終了時刻の厳守にご協力をお願いいたします。

- 基調講演 -

「ソーシャル・イノベーション研究の現在とスポーツ経営」

<講演者>

高橋 勅徳 氏（東京都立大学）

<講演概要>

本大会のメインテーマである「住民主導型スポーツ推進システム」は、スポーツの普及と地域再生を一つの事業として解決を図っていく、ソーシャル・イノベーション現象の一つとして捉え直すことができる。したがって、住民主導型スポーツ推進システムに関わる現象を捉える際には、一方で地域住民や行政組織、スポーツ団体、民間企業など多様な主体がこの事業に参加する利害に注目し、他方で多様な主体の関係から住民がいかにイニシアティブを獲得していくのか、行政や体育協会など権限や資源を有する主体が住民をいかにエンパワーメントしていくのかという、理論的視座が必要と考えられる。住民主導型スポーツ推進システムの具体像として期待されてきた総合型地域スポーツクラブの推進に限界や課題が顕著にみられつつある今、ソーシャル・イノベーション研究の動向を整理し、今後の重要な理論枠組みや着目すべき現象について示唆を得ることの必要性は高いと言える。そこで基調講演では、講演者の主著『ソーシャル・イノベーションを理論化する』の中でも、第8章「物的資源を媒介した利害の結び直し」を主題としながら、ソーシャル・イノベーション研究の動向を示していただき、住民主導型スポーツ推進システムの育成に関する今後の重要な議論や課題等を論じていただく。

- シンポジウム -

「住民主導型スポーツ推進システムの育成：課題と今後の展望」

<シンポジスト>

総合型地域スポーツクラブをめぐる政策展開と地域主体 関根 正敏 氏 (中央大学)

総合型地域スポーツクラブの休・廃止実態の背景と課題 行實 鉄平 氏 (久留米大学)

NPO の商業主義化と住民主導との相克 桜井 政成 氏 (立命館大学)

<コーディネーター>

松橋 崇史 氏 (拓殖大学) 横山 剛士 氏 (金沢大学)

<シンポジウム概要>

約四半世紀にわたり、総合型地域スポーツクラブは、住民主導型スポーツ推進システムの象徴的な姿としてその育成が支援されてきた。しかし、総合型地域スポーツクラブの中には、スポーツ経営能力を維持することが困難になりつつある事例が多々見られるようになってきた。今こそ、総合型地域スポーツクラブが住民主導の協働システムとして自立することは困難なのか、その背景や課題に関する議論が実践的にも理論的にも求められている。そして、総合型地域スポーツクラブ政策および研究のこれまでを振り返りつつ、生活者・運動者主導のスポーツ推進を目指してきた体育・スポーツ経営（学）は、如何に評価されるか。反省的な問いを喚起する必要がある。

本シンポジウムでは、まず、関根正敏氏から、総合型地域スポーツクラブの育成を目指す政策を住民がいかに関与していったのか、そうした実証研究の議論を中心としながら、住民主導型スポーツ推進システムとしてのクラブ育成の現況について総括していただく。続いて、行實鉄平氏には、休・廃止した総合型地域スポーツクラブの実情や休・廃止の事例から見た、住民主導型スポーツ推進システムの成立と維持問題について報告いただく。最後に、桜井政成氏から NPO の商業主義化に関する実証研究の成果をご紹介いただく。

質疑応答におけるフロアとのディスカッションでは、混迷する総合型地域スポーツクラブの現実の状況に目を向けながら、住民主導のスポーツ推進に向けた体育・スポーツ経営学研究の今後の課題を再考してゆきたい。

－ 若手研究者によるワークショップ －

「最新の研究方法論：クリティカル・マネジメント研究（CMS）」

<講師>

米田 晃 氏（神戸大学）

<コーディネーター>

奥田 直希 氏（高松大学）

<概要>

イギリスの経営学者であるデニス・トゥーリッシュ氏が著した『経営学の危機：詐術・欺瞞・無意味な研究』は、翻訳されるや否や、本邦における経営学関連の学問分野へ現在進行形で多大な影響を及ぼしています。同書は、論文刊行が目的化し、細かなリサーチギャップを埋めるための研究が量産されている現状に対して警鐘を鳴らすとともに、真にインパクトのある問いに迫ることの重要性を主張しています。同様に、論文刊行のゲーム化を問題視したマッツ・アルヴェッソン氏およびヨルゲン・サンドバーグ氏による『面白くて刺激的な論文のためのリサーチ・クエスションの作り方と育て方：論文刊行ゲームを超えて』では、先行研究において当然視され不問にされる前提の問い直しへの挑戦こそが重要で意義のある面白い研究であると述べられています。本学会においてはこのような経営学分野の動向と問題意識を共有し、「体育・スポーツ経営学の未来を考える」と題した研究報告会が 2023 年度より複数回実施され、どのような（に）体育・スポーツ経営学の未来を構築していくのかということについて議論を深めてきました。

しかしながら、デニス・トゥーリッシュ氏をはじめとした前出の著者たちが依拠するクリティカル・マネジメント研究（Critical Management Studies：CMS）については、体育・スポーツ経営学分野において十分にその学問的背景や知見が受容されているとは言い難いと考えられます。そこで本ワークショップでは、CMS を専門とし、ご自身も博士後期課程に在籍する若手研究者である米田晃氏から CMS の理論的背景や先述した研究（『経営学の危機』、『面白くて刺激的な論文のためのリサーチ・クエスションの作り方と育て方』）が国内外に及ぼしたインパクト等についてご紹介いただきます。そして、それらの知見および若手研究者が置かれている現状を踏まえた上で、参加者との自由な議論を通じて、本学会におけるとりわけ若手研究者が歩むべき方途を見出すことを目指します。

- 研究発表 -

学生研究発表

■3月15日（A会場：MMホール）10:30～11:00

演題 番号	座長：斉藤麗（作新学院大学）	発表者	所属	頁
A-01	新型フィットネスクラブにおける入会動機と継続意図の研究	前田瑛藍	早稲田大学	15
A-02	運動部活動における部員の抵抗に関する研究	高嶋紗莉	武庫川女子 大学	17

ポスター発表

<ポスターセッション>

■3月15日（ポスター会場：MM-503 および 506 教室前）11:10～11:40

演題 番号	ファシリテーター：奥田直希（高松大学）	発表者	所属	頁
P-01	（仮題）部活動の地域移行における学生指導者派遣コンソーシアム設立について	永谷稔	北翔大学	-
P-02	地域スポーツクラブ事業参加と社会人基礎力の関連：探求科目とサービス・ラーニングを通じた高校生と大学生の活動事例から	常浦光希	広島大学 大学院	-

※ポスター発表に抄録はございません

一般研究発表

<セッション1>

■3月16日（A会場：MMホール）9:30～10:50

演題 番号	座長：松橋崇史（拓殖大学）	発表者	所属	頁
A-03	総合格闘技(MMA)観戦者のセグメンテーション －「認知的観戦能力」に着目して－	渡邊悠介	早稲田大学 大学院	19
A-04	公共スポーツ施設の価値の定量的評価 －CVM(仮想的市場評価法)を用いて－	小松亮太	早稲田大学 大学院	21
A-05	国内スポーツコミッションにおける事務局職員のモチベーション研究－PSMと役割上の職務成果に着目して－	島崎元	早稲田大学 大学院	23
A-06	3人制バスケットボールの試合会場における雰囲気測定 尺度の開発	水井研登	早稲田大学 大学院	25

■3月16日（B会場：MM-505教室）9:30～10:50

演題 番号	座長：山本悦史（新潟医療福祉大学）	発表者	所属	頁
B-01	地域スポーツ協会の経営評価：市区町村スポーツ協会を 対象とした調査の二次データ分析	柴田紘希	日本体育大学	27
B-02	都道府県体育・スポーツ協会のマネジメントに関する研 究－中間支援組織としての機能からみた先進事例研究－	出見世義信	筑波大学大学 院	29
B-03	スポーツ団体における公益通報の効果的運用に関する研 究	溝口紀子	日本女子体育 大学	31
B-04	スポーツ行事の中止等に生じた権利を放棄した場合の寄 附金控除の検討－新型コロナウイルス感染症－	長谷川記央	高崎経済大学	33

<セッション2>

■3月16日（A会場：MMホール）11:00～12:20

演題 番号	座長：霜島広樹（福岡大学）	発表者	所属	頁
A-07	コーチの「才能」に関する現象学的考察	小松友哉	鹿屋体育大学 大学院	35
A-08	テニスレッスンにおける「価値共創」場面の視覚化に関する研究：特に、コーチ行動に着目して	井口瑛心	立命館大学 大学院	37
A-09	シリアスレジャーへの関与と主観的幸福感に関する一考察—日本のマラソンランナーを対象として—	許孫行	早稲田大学 大学院	39
A-10	子どものスポーツをささえる人の活動継続要因の分析—群馬県・新町スポーツクラブ指導者のライフストーリーに着目して—	有田いづ美	慶應義塾大学 大学院 政策・メディア 研究科	41

■3月16日（B会場：MM-505教室）11:00～12:20

演題 番号	座長：小山さなえ（山梨学院大学）	発表者	所属	頁
B-05	スポーツ組織研究における「プロセスによる理論化」	山北隆太郎	和歌山大学	43
B-06	中国におけるオリンピック教育に関する研究動向—2015年～2024年の10年間を対象として—	陳莉莉	早稲田大学 大学院	45
B-07	パラスポーツ教育プログラムの評価に関する研究—調査手法と調査票作成の改良に向けて—	岡田美優	早稲田大学 大学院	47
B-08	中国におけるソーシャルメディアがスキーリゾート訪問意図に与える影響—新疆スキーリゾートを対象として—	張自強	早稲田大学 大学院	49

<セッション3>

■3月16日（A会場：MMホール）13:10～14:30

演題 番号	座長：望月拓実（法政大学）	発表者	所属	頁
A-11	地方自治体における学校開放施策の形成過程：横浜市の 独自事業制度に着目して	居相良介	筑波大学 大学院	51
A-12	大学におけるスポーツクラブ経験と卒業後のスポーツ継 続意図に関する研究－特にコートの外に着目して－	栗原瑞季	筑波大学 大学院	53
A-13	成人のスポーツライフスタイルと生活満足度の関連 －30代と40代を対象としたアンケート調査をもとに－	林田敏裕	筑波大学	55
A-14	SVリーグ観戦者の推し活：健康観に及ぼす影響の検討	出口順子	東海学園大学	57

■3月16日（B会場：MM-505教室）13:10～14:10

演題 番号	座長：川邊保孝（東海大学）	発表者	所属	頁
B-09	令和時代の新しいブカツのあり方に関する研究	嶋崎雅規	国際武道大学	59
B-10	中学校部活動の地域移行における実施主体の運営の重要 度に関する研究－保護者と教員の視点から－	与那覇秀勲	流通科学大学	61
B-11	スポーツ政策形成過程からみた部活動の地域移行に関す る研究	横山剛士	金沢大学	63